



学校インターンシップ プログラムのご案内

～インターンシップ生の受け入れについてのご願い～

2017
Kansai University
School Internship Program

【お問い合わせ先】

関西大学 社会連携部 高大連携センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
Tel(06)6368-1184(直通) Fax(06)6368-0858
E-mail : koudai@ml.kandai.jp

関西大学 学校インターンシップ

検索

<http://www.kansai-u.ac.jp/koudai/gakuinte/>  click!

関西大学

関西大学『学校インターンシップ』のご案内

本学では高大連携事業の一つとして、大学生が教育現場で就業体験を積む「学校インターンシップ」を行っております。本学学校インターンシップ事業は、2017年度で15年目を迎えました。2005年度文部科学省「特色GP」に採択以降も、毎年150名近くの本学学生が学校現場で研修を行っております。

学校インターンシップは、大学生の職業教育という意義だけではなく、年長の若者と年少の若者をつなぐ、若い力による高大連携事業なのだ、私たちは考えております。各地の教育委員会では、大学生の教育現場での活動をボランティアと位置づけているところが多いようです。しかし、本学では、ボランティアは学生個人の自主的な活動であるのに対して、学校インターンシップは大学教育の一環として位置づけております。その具体的な違いは、①面接・選考した上で学生を送り出していること、②オリエンテーション・マナー講座・教職キャリアデザイン講座・事後報告会等の事前、事後講座の受講を義務づけていること、③研修報告書・業務日報の提出によって単位認定を行っているということです。大学教育の一環として位置づけているため、受入学校・園での最低実働時間も設けております。

私どもの趣旨にご賛同賜り、「教職に就かれている諸先輩の方々」および「児童・生徒」との出会いを切に願っております。本学の学生を受け入れていただき、将来の教員たる資質の向上と涵養にご支援くださいますようお願い申し上げます。

関西大学 社会連携部
高大連携センター長
品川 哲彦



学校インターンシップ 2017

CONTENTS

1. 学校インターンシップ プログラム概要 …… 1
2. 学校インターンシップ 実施スケジュール …… 2
3. 学校インターンシップ 研修事例 …… 6
4. 学校インターンシップ 受け入れに関するQ&A …… 11
5. 参考資料(関連文書様式の見本) …… 15
6. 学校インターンシップ 受入申込みについて …… 18

1 学校インターンシップ プログラム概要

目的

学生が学校・園の日常的な教育活動、課外活動などを幅広く実地体験することを通して、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識を向上させることを目指します。

研修生

本学学部生、本学大学院生（意欲と動機が明確で、誠実に取り組むことができる者を選考いたします）。
※原則として、学年・学部・教職志望の有無など、特定の条件は設けておりません。

受け入れ

実施期間に関しては、受入学校・園にて個別に日程を設定していただきます。ただし、本学は学校インターンシップを大学教育のなかに位置づけて単位認定をしておりますので、①**実施期間は8月上旬～12月中旬の間**で設定、②**研修時間は統計36時間以上**、③**学年暦による時期の制約**について、下記の点にご配慮をいただきますようお願いいたします。

- 【実施期間】：2017年8月上旬～12月中旬
 (例) 短期連続型：2017年8月上旬～9月中旬の間、連続6日間など
 (例) 長期型：2017年9月下旬～12月中旬の間、毎週特定曜日1日など
 【研修時間】：統計36時間以上

【関西大学 学年暦】

春学期試験期間	7月24日(月)～7月31日(月)
夏季休業期間	8月2日(水)～9月20日(水)
秋学期授業開始	9月21日(木)

※受入期間を設定される際、参考にしてください。

業務 (研修内容)

インターンシップ期間中の業務（学生の研修内容）については、受入学校・園で設定いただきます（例：学校行事（運動会・文化祭など）の補助、授業補助、クラブ活動・図書室運営・教材作成の補助など）。本プログラムをより一層充実したものにすため、複数の業務内容を組み合わせていただくなど、ご配慮をいただければ幸いです。

費用

インターンシップ期間中の労働への対価は必要ありません。交通費につきましては、本人が負担（一部大学で補助）いたします。

守秘

インターンシップ期間中に知り得た学校および関連機関等の機密事項と在校生の個人情報の取り扱いについては、インターンシップ生から守秘義務に関する「誓約書」(P17参照)を提出させ、大学で取りまとめのうえ、送付いたします。

事故補償

インターンシップ期間中の事故等の補償については、大学の責任によりインターンシップ生を学研災付帯賠償責任保険に加入させ、これを適用いたします。

対人賠償と対物賠償あわせて 1事故につき1億円限度

事前と事後の指導

本学は学校インターンシップを大学教育の一環として位置づけ、インターンシップ生には、事前講座でマナーや学校現場での心構えについての講習を受けさせております。また事後には、インターンシップの成果を振り返るための事後報告会を実施しております。

2 学校インターンシップ 実施スケジュール

※各行事の開催日時は変更になることがあります。

3月

大 学

受入学校・園の募集を開始します。

学校・園 (教育委員会)

本パンフレットをご覧ください、学生の受け入れをご検討ください。

学校・園 (教育委員会)

大 学

■ 学校インターンシップWebエントリーシステム利用ID・パスワード申請期間 本パンフレット受取～4月20日(木)

学校インターンシップ実習生を受け入れていただける場合、Webエントリーシステムを利用してお申込みください。なお、申込みフォームへアクセスいただくには、ID・パスワードが必要ですので、P.18をご参照ください。

4月

学校・園 (教育委員会)

大 学

■ 学校向け学校インターンシップ募集説明会 4月6日(木) 16:30～17:40

受け入れをご検討いただいている学校・園、教育委員会の先生方を対象とした説明会を開催します。学校向け学校インターンシップ募集説明会に参加を希望される場合はP.20の申込書をFAXにてお送りください。

学校・園 (教育委員会)

大 学

■ 学校インターンシップWebエントリー締切 4月22日(土)

本学学生を受け入れてくださる場合は、期日までにシステムにご登録ください。

5月

学 生

学生のエントリー

■ 学校インターンシップ募集説明会 5月10日(水)～16日(火)

学校インターンシップを希望する学生に、受入申込みのあった学校・園リストと研修内容・期間等を公表し、インターンシップの申込み受付を行います。

■ 学校インターンシップ学生申込み締切 5月24日(水)

6月

大 学

学 生

■ 派遣学生の選考・内定 5月24日(水)～6月4日(日)

本学学校インターンシップ担当教員が申込者の書類審査・面接を行い、派遣学生を内定します。

学校・園(教育委員会) 大学

■ 受入学校へ内定者を通知 6月8日(木)頃に発送予定

派遣予定の学生の氏名、志望動機などを記載した「個人票」を郵送し、希望している研修内容や期間をお知らせします(P.16～P.17参照)。内定した学生が、事前講座②のビジネスマナー講座を受講した後、6月26日(月)から1週間以内に受入学校・園へ電話連絡をし、訪問(面談)のアポイントを取ります。**学生からの連絡がありましたら、受入学校・園による「面談」をお願いします。**

学校・園(教育委員会) 大学

「学校インターンシップ実習生派遣に関する覚書」の締結

本学と受入学校・園との間で、インターンシップ生に決定した学生の派遣に関する「覚書」(P.16参照)を締結します。その後、インターンシップ生の守秘義務等についての「誓約書」(P.16参照)を大学から受入学校・園へ郵送します。

学 生

事前講座①を開催

■ 内定者オリエンテーション 6月14日(水)

学 生

事前講座②を開催

■ ビジネスマナー講座 6月21日(水)

学校現場でのインターンシップの意義、心構え、必要なマナーなどについて事前指導を徹底します。

学校・園(教育委員会) 大学

事前講座③を開催

■ 教職キャリアデザイン講座 7月5日(水)

学校インターンシップを経験し、本学を卒業後に教員として活躍している方を招いての講演および学生によるグループワークを行う予定です。

学校・園(教育委員会) 大学 学 生

学校インターンシップ実施

■ 実施期間 8月上旬～12月中旬

※学校・園での総研修時間が36時間以上となるよう実施してください。

学校・園(教育委員会) 大学 学 生

■ 事後報告会 9月20日(水) 16:20～17:50 (原則として9月20日までに研修を終了した学生対象)
12月13日(水) 16:20～17:50 (上記以外の学生対象)

インターンシップ生の代表者による研修に関する報告の他、小グループにわかれて、グループ討論を予定しています。受入学校・園の先生方もアドバイザーとしてグループに加わっていただき、参加者同士で討論・交流をして、研修の総括を行います。

大 学 学 生

インターンシップ生の単位認定

「研修報告書」「業務日報」の提出等にもとづき、大学においてインターンシップ生の単位認定をします。

2016年度受入申込学校・園の校種別・地域別の数値

●高等学校

	受入申込校数	派遣校数	受入可能人数	派遣人数
大阪府立	19	18	78	50
大阪市立	2	1	5	2
堺市立	1	1	2	2
兵庫県立	3	2	5	4
京都府立	2	1	7	1
奈良県立	1	1	2	1
私立	7	4	25	9
合計	35	28	124	69

●中学校

	受入申込校数【実】	派遣校数【実】	受入可能人数	派遣人数
池田市	5	3	13	3
茨木市	1	1	5	3
高槻市	2	2	13	3
豊中市	5	2	14	2
吹田市	11	5	60	12
守口市	1	0	3	0
寝屋川市	2	1	7	3
東大阪市	2	1	8	2
河内長野市	1	0	3	0
堺市	2	2	2	2
西宮市	1	1	2	1
長岡京市	3	3	10	7
私立	5	2	20	3
合計	41	23	160	41

●小学校

	受入申込校数【実】	派遣校数【実】	受入可能人数	派遣人数
池田市	10	3	33	3
茨木市	2	2	16	3
高槻市	7	2	44	3
豊中市	13	1	47	2
吹田市	14	5	67	7
守口市	1	1	10	1
寝屋川市	6	2	21	4
東大阪市	10	0	34	0
八尾市	3	0	9	0
河内長野市	2	1	6	2
堺市	1	1	1	1
宝塚市	4	0	16	0
西宮市	3	0	9	0
京都市	5	2	16	3
長岡京市	4	0	15	0
合計	85	20	344	29

●幼稚園

	受入申込校数【実】	派遣校数【実】	受入可能人数	派遣人数
池田市	4	1	5	1
吹田市	8	3	43	4
西宮市	1	0	1	0
京都市	1	0	2	0
合計	14	4	51	5

●総計

	受入申込校数【実】	派遣校数【実】	受入可能人数	派遣人数
高等学校	35	28	124	69
中学校	41	23	160	41
小学校	85	20	344	29
幼稚園	14	4	51	5
合計	175	75	679	144

派遣学生の学部・学年別の内訳

●学部別派遣学生数

学部	学年()内数字は入学年	人数	学部計
法	1年次(16)	5	11
	2年次(15)	3	
	3年次(14)	2	
	4年次(13)	1	
文	1年次(16)	22	76
	2年次(15)	28	
	3年次(14)	25	
	4年次(13)	1	
経済	1年次(16)	0	5
	2年次(15)	0	
	3年次(14)	5	
	4年次(13)	0	
商	1年次(16)	0	4
	2年次(15)	3	
	3年次(14)	1	
	4年次(13)	0	
社会	1年次(16)	3	10
	2年次(15)	2	
	3年次(14)	3	
	4年次(13)	2	
政策創造	1年次(16)	0	2
	2年次(15)	0	
	3年次(14)	2	
	4年次(13)	0	
外国語	1年次(16)	8	10
	2年次(15)	0	
	3年次(14)	1	
	4年次(13)	1	
人間健康	1年次(16)	1	5
	2年次(15)	2	
	3年次(14)	2	
	4年次(13)	0	
総合情報	1年次(16)	1	1
	2年次(15)	0	
	3年次(14)	0	
	4年次(13)	0	
社会安全	1年次(16)	0	2
	2年次(15)	0	
	3年次(14)	2	
	4年次(13)	0	
システム理工	1年次(16)	4	10
	2年次(15)	0	
	3年次(14)	6	
	4年次(13)	0	
環境都市工	1年次(16)	1	1
	2年次(15)	0	
	3年次(14)	0	
	4年次(13)	0	
化学生命工	1年次(16)	3	5
	2年次(15)	1	
	3年次(14)	1	
	4年次(13)	0	
大学院	M1	2	2
合計(申込者数)			144

●学年別派遣学生数

年次()内は入学年度	人数
1年次(16)	48
2年次(15)	39
3年次(14)	50
4年次(13)	5
院生	2
合計(派遣者数)	144

研修先学校・園名一覧			
高等学校（大阪府立）	高等学校（京都府立）	中学校（東大阪市立）	小学校（豊中市立）
大阪府立旭高等学校	京都府立城陽高等学校	東大阪市立小阪中学校	豊中市立原田小学校
大阪府立市岡高等学校	高等学校（奈良県立）	中学校（寝屋川市立）	小学校（吹田市立）
大阪府立大冠高等学校	奈良県立香芝高等学校	寝屋川市立第一中学校	吹田市立吹田第三小学校
大阪府立堺東高等学校	高等学校（私立）	中学校（堺市立）	吹田市立千里第三小学校
大阪府立桜塚高等学校	関西大学第一高等学校	堺市立鳳中学校	吹田市立高野台小学校
大阪府立狭山高等学校	関西大学北陽高等学校・中学校	堺市立長尾中学校	吹田市立桃山台小学校
大阪府立渋谷高等学校	京都光華高等学校	中学校（西宮市立）	吹田市立山田第三小学校
大阪府立吹田東高等学校	興國高等学校	西宮市立甲陵中学校	小学校（守口市立）
大阪府立千里高等学校	中学校（池田市立）	中学校（長岡京市立）	守口市立藤田小学校
大阪府立大正高等学校	池田市立石橋中学校	長岡京市立長岡中学校	小学校（寝屋川市立）
大阪府立高槻北高等学校	池田市立池田中学校	長岡京市立長岡第三中学校	寝屋川市立点野小学校
大阪府立刀根山高等学校	池田市立北豊島中学校	長岡京市立長岡第二中学校	寝屋川市立堀溝小学校
大阪府立登美丘高等学校	中学校（茨木市立）	中学校（私立）	小学校（河内長野市）
大阪府立花園高等学校	茨木市立養精中学校	関西大学中等部	河内長野市立石仏小学校
大阪府立東淀川高等学校	中学校（高槻市立）	京都文教中学校	小学校（堺市）
大阪府立みどり清朋高等学校	高槻市立五領中学校	小学校（池田市立）	堺市立美原北小学校
大阪府立山田高等学校	高槻市立柳川中学校	池田市立池田小学校	小学校（京都市立）
大阪府立夕陽丘高等学校	中学校（豊中市立）	池田市立北豊島小学校	京都市立梅小路小学校
高等学校（大阪府立）	豊中市立第三中学校	池田市立呉服小学校	京都市立椋原小学校
大阪府立 大阪ビジネスフロンティア高等学校	豊中市立第十二中学校	小学校（茨木市立）	幼稚園（吹田市立）
高等学校（堺市立）	中学校（吹田市立）	茨木市立西河原小学校	吹田市立吹田第三幼稚園
堺市立堺高等学校	吹田市立高野台中学校	茨木市立中津小学校	吹田市立千里第二幼稚園
高等学校（兵庫県立）	吹田市立第一中学校	小学校（高槻市立）	吹田市立山田第一幼稚園
兵庫県立芦屋高等学校	吹田市立第三中学校	高槻市立大冠小学校	幼稚園（池田市立）
兵庫県立尼崎高等学校	吹田市立豊津西中学校	高槻市立富田小学校	池田市立なかよしこども園
	吹田市立南千里中学校		

3 学校インターンシップ 研修事例

以下に2016年度実施例を紹介いたします。なお、「インターンシップ生の声」は学生が提出した「研修報告書」の内容から抜粋しています（学年は研修時のものです）。

短期連続型

事例1	期 間	8月29日～9月13日の間、5日間（総研修時間：41時間）
	研修内容	保育の手伝い・補助・準備、プールの補助、準備や片付け
幼稚園	インターンシップ生の声	（文学部：2年次生）
		8月29日からの3日間、夏休み期間中のプール登園日であったため、午前の数時間、園児と一緒にプールに入り、午後は先生方の作業のお手伝いをしました。午前のプールでは、みんなで遊ぶことをイメージしていました。しかし、ゲームを通してただ遊ぶだけではなく意図的に顔に水をつけるきっかけを子ども達に与えたり、ビート板を用いてバタ足やけのびを教えたりと、小学校での水泳学習に入る前の基礎づくりが楽しく行われていました。午後の作業では、牛乳パックを切ったり、遊び道具として危なくないように空き缶にテープを張ったりとどれも細かい作業でしたが、幼い子たちの安全のため、またスムーズに保育が進められるように先生方が子ども達から見えない所でたくさん作業を日々こなしていってらっしゃるといことも分かりました。9月12日からはクラスの活動に参加しました。年長さんと年中さんが1クラスに混在して一緒に遊ぶ姿が見られて、こういう部分に混在させている「ねらい」があるかなと感じました。幼稚園では集団行動の基礎や、自立して自分の事がきちんとできるようにすること、お友達との関係を築くこと等、様々なことをたくさん笑って、たくさんほめてあげて、自尊心を高め成長させている様子が、先生方と子ども達の関わりから分かりました。こうやって過ごしてきた子ども達を次に預かる小学校教師を目指すものとして、幼稚園での学びを上手く接続できるように小学校低学年の子たちと関わっていきたくです。

事例2	期 間	9月5日～9月12日の間、6日間（総研修時間：40時間）
	研修内容	授業補助、授業見学
小学校	インターンシップ生の声	（外国語学部：1年次生）
		私は主に1年生の授業補助と他学年の授業見学をさせて頂きました。その際に、クラスの雰囲気、勉強する態度、姿勢、先生方がどのように授業を進めていられるのか、どのように児童たちに接しておられるのかということに特に意識して見学させて頂きました。反省点は、生徒が授業中に遊んでいたり、よそ見をしていたり関係のないことで話しかけてきたりしたときには、はっきりと叱ることができなかったという点です。1年生担任の先生は、時に優しく、時に厳しく指導をされていました。叱る時は、ただ叱るだけではなく「なぜそうなったのか」を考えさせたり、「前よりは成長しているけど」という言葉で児童を励ましていました。そのように児童と接し、良い児童と先生間の関係を築いていくことがとても重要であると感じました。インターンシップを始める前に校長先生が「学年が下がれば下がるほど教育は原点へと近づいていく」とおっしゃられていましたが、正にその通りであったと感じました。低学年は勉強はもちろん、精神的な部分も含め基礎から学んでおり、高学年はその基礎を土台に発展した学びをしていると思いました。今回のインターンシップを通して、学校現場の様々なことを経験することができました。私は日本語教員の資格のみを取得したいと考えていたのですが、教員の方やたくさんのお友達と関わったことで、以前よりも「教師」という職業に強く興味をひかれたことから、教員免許を取得したいという考えに至りました。この思い出と経験を忘れずに活かして、将来に教壇に立てるよう、大学で努力していきたいと思えます。



長期型

事例3	期 間	8月29日～9月11日の間、13日間（総研修時間：125時間）
	研修内容	授業補助、クラブ見学
	インターンシップ生の声（法学部：1年次生）	<p>2週間の研修を通して子どもたちの成長を感じることが出来ました。短い期間でしたが、毎日変化する生徒たちの様子を見るのが楽しみであり、特に学園祭の取り組みであるダンスの練習では意見が合わなくて生徒同士で対立して苦労している姿も見ましたが、その中でも少しずつ完成に近づいているのを実感することが出来ました。当初は生徒と上手くコミュニケーションが取れるか不安でしたが、担当したクラスの生徒、クラブの生徒、他のクラスの生徒たちが積極的に話しかけてくれたので、生徒と交流する機会が多くありました。しかし、インターンシップ中に自分がまだ学生だという気持ちが抜け切れてなく、先生という立場である事をしっかり理解できていない行動をいくつかとってしまいました。自分の立場をしっかりと確認して、自学を持って行動しなければならないと感じています。この2週間を振り返ると、授業以外の学校業務を知ることができました。また多くのクラブ活動を見せて頂いたり、それらに参加させて頂くことが出来てとても充実した日々となりました。今回子ども達と一緒に交流が出来た経験と大人同士の関わりである企業のインターンシップでの経験を比べてみてどちらが自分に適性があるのかを考えていきたいと思います。このインターンシップを通して教員という仕事の重要性、そして素晴らしさを知ることが出来ました。</p>
中学校		

事例4	期 間	9月1日～9月10日の間、8日間（総研修時間：52時間）
	研修内容	文化祭実行委員の補佐、授業見学、クラブ活動補助
	インターンシップ生の声（社会学部：3年次生）	<p>研修は、主に文化祭実行委員の補佐として正門に設置するアーチの装飾、団員モニュメントのペンキ塗り、切り抜き、パンフレット準備、その他施設の準備を行いました。生徒指導部の他の3人のインターンシップ生より1週間遅れての参加だったので、少し不安でしたが、先生方が温かく受け入れて下さり、先生方の包容力の大きさは生徒を見守っていくうえで、とても大切なんだなと思えました。生徒たちは有志として文化祭実行委員に参加しているので、自分たちで考えて行動し、私たち大学生に次はどのようにしてほしいか積極的に言ってくれたのでスムーズに活動することができました。絵を描く作業が多く、私はできないと避けていた場面もあったので、まかせっきりのところもありました。そこから逃げず、教えてもらいながらも作業ができていれば、さらにコミュニケーションが取れたらうなと反省しています。垂れ幕や照明器具の設置の際、経験者の先生が、いつ自分が異動になっても大丈夫のように若手の先生方に一から丁寧に指導されていました。先生たち同士の情報の共有がちゃんとできていないと生徒たちにも伝わらない、そこから運営がスムーズに進まないことになるので自分の中で最大い収穫だと思っています。50分間無駄のない構成の中でプリントを使い、予習、復習がしっかり行われ、先生と生徒の発言のあいりがとても楽しく面白かったです。自分もこのような流れで授業が出来るのを目指したいと思います。また、剣道部の稽古にも参加させて頂き、この8日間本当に濃密でぜいたくなものになりました。今は大学生として目の前にある勉学から逃げず、継続して努力し、将来教員として働けるように頑張りたいと思います。</p>
高等学校		

事例1	期 間	8月26日～12月21日の間、週1日間程度（総研修時間：38時間）
	研修内容	支援学級における補助
	インターンシップ生の声（文学部：3年次生）	<p>今回の学校インターンシップを通し、私が心がけたことは積極的にコミュニケーションを取ることです。支援ルームと一緒に勉強したり遊んだりする中で初めは何を話そうかと考えることが多かったのですが、一方的に話しかけるだけでなく向こうからも話しかけてくれるようになりとても嬉しく感じました。教室に入ることがなかなかできないということで、運動会の練習や行事の時、どこまで一緒に、できるだけ入れるようにサポートしてもいいのか。わからなかったことをその場で聞けばよかったと反省しています。児童は人懐っこくたくさん話しかけてくれる子が多かったけれど、私が関わった支援ルームの子のように、自分から話しかけることが苦手な子もいて色々な子がいる中でやっぱり一番大切なのは、明るく接し続けてたくさんコミュニケーションを取ることでと感じました。このインターンでシブでは普段出来ないとても貴重な経験ができ、今後の自信につなげて学んだことをどんどん活かしていきたいと思います。</p>
小学校		

事例2	期 間	9月1日～12月12日の間、週2日間程度（総研修時間：195時間）
	研修内容	授業補助、放課後学習、事務補助、行事補助
	インターンシップ生の声（化学生命工学部：3年次生）	<p>主な研修は、授業見学・補助・プリント印刷、文化祭・体育大会の準備の手伝い、清掃指導、クラブ指導でした。その他にも説明会の準備やテストの丸つけ、理科室の備品点検など教育実習では体験できないであろう業務まで本当に幅広くさせて頂きました。特に授業見学は多くの先生方をお願いして見させて頂きました。その中で、先生の話し方や授業の導入の仕方、展開の仕方、生徒への注意の仕方を意識して見ていました。生徒が騒がしい時は、騒がしい時に注意するのではなく、静かになるまで待ち、それから注意するなど、注意のコツや授業の進め方を学びました。朝礼や終礼など学級活動では、チャイムが鳴ったら私語はしない、作業をしないを徹底していて、メリハリのあるクラスでした。また、今回のインターンシップでは、積極的に生徒に話しかけることを心がけました。具体的には休み時間だけでなく、朝早く行き生徒と話したり、昼食時や放課後もできるだけ生徒と関わるようにしました。初めは話しかけてこなかった子も、徐々に話しかけてくれるようになり、とても嬉しく感じました。生徒の成長を見るという目標は、はっきりとした成長に気づくことが出来ませんでした。しかし、文化祭や体育祭を通してクラスの団結力が増したことを感じる事ができました。反省点は、生徒をしっかり叱ることが出来なかったという点です。授業中、生徒が私語をしていた時や、清掃の時真面目にできなかった生徒をきちんと注意できませんでした。短い間でしたが、たくさん事を経験し、学びました。また自分に足りない事や課題も見つけることが出来ました。これらの経験を活かし、半年後の教育実習に臨みたいですし、そして、将来、教師として教壇に立てるよう努力していきたいです。</p>
中学校		

事例3	期 間	8月30日～11月12日の間、週1日間程度（総研修時間：40時間）
	研修内容	授業見学、文化祭・中学生向け学校説明会の補助
	インターンシップ生の声（人間健康学部：2年次生）	<p>研修は、授業見学や行事の補佐を行いました。授業見学では授業の組み立て方と授業の目的や生徒の学びに焦点を置き、見学をしました。行事は、主に文化祭や学校説明会の準備と運営を生徒と共に行いました。全体的な反省点は、あまり自発的に行動できなかった点です。例えば生徒に話しかける頻度を増やしたり、生徒だけでなく先生方にももっとたくさんのお話を聞く機会を作り出したかったです。積極性というのは、自分で感じるものではなく、他者が感じて初めて認められるものだと考えています。そのため、私自身が頑張っていると思っても、他者に伝わってなければ、それは意味のないものになってしまいます。これは私の課題だと思っています。今回のインターンシップを通して、今後の課題を認識できたため、これから日常生活も意識をして生活していきたいと考えています。また、今描いている教師像をより具体的にすることが出来ました。教師という仕事のやりがいや苦労する場面を知ったうえで、より教職に対する想いが増しました。この想いを持続させ、私自身の原動力にし続けたいです。そして、今回のインターンシップで得たことをこれで終わりにせず、自信にして、活かしていきたいと強く思います。</p>
高等学校		

学生は、児童・生徒と接する機会が多い研修内容を希望する傾向があります。事務作業補助に加えて、児童・生徒たちと接する業務を組み合わせただけだと幸いです。



CHECK!

《研修期間中の業務内容を紹介》

インターンシップ生は、自身が研修・体験した業務内容を1日ごとに「業務日報」に記録していきます。そして、その日学んだことや反省したことの振り返りを行います。

ここでは、その業務日報をもとに、どのようなふりかえりを行っているのか紹介します。

- 研修期間：9月5日～9月18日 [短期連続型研修]
- 研修先：中学校
- 研修内容：授業見学・補助、部活動指導補助

9月5日 研修1日目

8:00	登校
8:20～	先生方へ挨拶・自己紹介
8:30～	全校放送による生徒への挨拶
8:45～	校内案内・打合せ
9:45～	授業見学(1年社会)
10:45～	授業見学(1年理科)
11:45～	授業見学(1年国語)
12:35～	昼休み
13:20～	授業見学(1年英語)
14:20～	授業見学(1年英語)
15:15～15:40	掃除、SHR
16:00	下校

初日に先生方と生徒へ自己紹介させていただいたので、その後のコミュニケーションが取りやすくなりました。

校舎内の配置や教室の場所などが分からないので、案内していただき、とてもありがたかったです。

今日、学んだことや所感

1日目で、緊張しすぎて、先生方について行くだけで、逆に邪魔になってしまったのではないかと心配しています。先生方は親切で、生徒たちは皆明るく、すれ違えばあいさつしてくれる生徒ばかりで安心しました。今日は実際に何かをするということではなく、校内を案内していただいたり、生徒の様子を見ることで終わったので、次回をもっと積極的に行動できればよいと思いました。

9月6日 研修2日目

8:00	登校
8:15～	校門であいさつ運動 先生方へ挨拶・職員会議
8:45～	授業見学(1年英語)
9:45～	授業見学(1年理科)
10:45～	授業見学(1年英語)
11:45～	授業見学(1年国語)
12:35～	昼休み
13:20～	授業見学(1年国語)
14:20～	授業見学(1年社会)
15:15～15:40	掃除、SHR
16:00～	バレー部指導補助
18:15	下校

様々な授業の見学ができて、指導方法など、とても参考になりました。

部活動に参加することによって、担当クラス以外の生徒と交流することができました。

今日、学んだことや所感

今日から校門で学校に来る生徒たちにあいさつすることになりました。みんながあいさつを返してくれるのが嬉しかったです。これをきっかけに私の顔を生徒たちに覚えてもらいたと思いました。昼休みには、クラスに入って一緒に昼食をとり、生徒との距離を縮めることができました。今日から部活動に参加させていただきました。久しぶりに体を動かすので、緊張しましたが、しっかりと技術指導ができてよかったです。

9月12日 研修6日目

8:00	登校
8:15～	校門であいさつ運動 先生方へ挨拶・職員会議
8:45～	授業見学(1年英語)
9:45～	授業の準備(プリント印刷)
10:45～	授業見学(2年英語)
11:45～	授業の準備(プリント印刷)
12:35～	昼休み
13:20～	授業見学(1年英語)
14:20～	授業見学(2年英語)
15:15～15:40	掃除、SHR
16:00～	バレー部指導補助
18:15	下校

授業をする以外にも、先生方には膨大な事務作業があることを知りました。

英語の先生を目指しているのですが、同じ科目で異なる学年やクラスの授業見学はとても参考になりました。

今日、学んだことや所感

今日は4人の英語の先生の授業を見学させていただきました。先生によって進め方や指導方法が違ってすごく勉強になりました。授業で工夫している点などは、教育実習で実践してみたいと感じました。また、授業の準備としてプリント印刷をさせていただいたのですが、普段、授業をしながらこのような準備をされていることに気づき、改めて先生の大変さを実感することができました。

9月14日 研修8日目

8:00	登校
8:15～	校門であいさつ運動 先生方へ挨拶・職員会議
8:45～	授業補助(1年英語)
9:45～	授業補助(1年英語)
10:45～	授業補助(2年英語)
11:45～	授業補助(2年英語)
12:35～	昼休み
13:20～	授業で回収したプリントの丸つけ HRで配布するプリントの作成
15:15～15:40	掃除、SHR
16:00～	放課後学習指導
18:15	下校

研修の後半からは、授業補助もさせていただくようになりました。教えることの難しさを改めて実感しました。

今日、学んだことや所感

英語の問題で悩んでいる子に声をかける時に、どこまでがヒントや説明で、どこからが答えになるのか迷いました。理解できない箇所もそれぞれだし、理解の深さもそれぞれなので、どの程度まで手助けをしていいのかが悩みます。今日は、放課後学習に参加しました。英語と数学に取り組みましたが、伝え方、学習の進め方をもっと工夫して、楽しく、集中力を長く保てるようにしようと思いました。今日は考えることや、次回への課題が多い1日でした。

上記のように、インターンシップ生について、学校全体が理解して下さるよう、事前にインターンシップ生が来ることをご周知いただいたり、先生方や生徒の前で、挨拶する機会を設けていただければ、学生たちは活動しやすくなります。また、研修内容が同一でも、異なるクラスや学年を担当することは、とても参考になるようです。

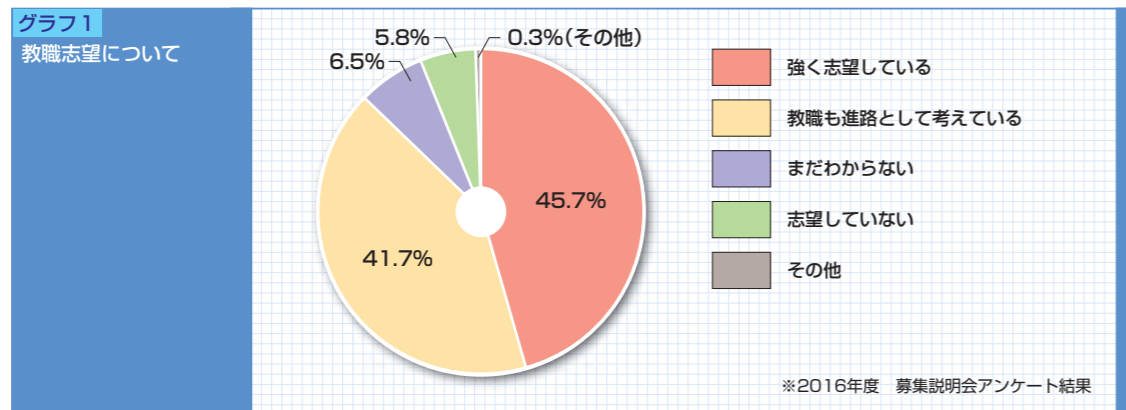
インターンシップ生は、教員の業務のごく一部しか知らないことが多いため、授業補助の他に、担任業務や進路指導業務、図書室業務、資料整理など、教員の多岐にわたる業務を経験することは、とても良い経験になります。学校とインターンシップ生の要望が合致すれば、予定されていた研修以外の内容を組み込んでいただいても結構です。

双方にとって、実りのある機会にさせていただければ幸いです。

4 学校インターンシップ 受け入れに関するQ&A

Q 学校インターンシップを希望する学生はどのようなタイプの学生が多いのですか？

A 教職を志望する学生が大半です（グラフ1）。本学は、1年次生から、学校インターンシップを体験することができます。中には、自分は教員としての適性があるのかと進路に迷っている学生もいます。学校インターンシップを体験して教職志望をしっかりと固めたという学生も多くいます。受入学校・園の先生方には、教員の仕事の様々な面を学生にご指導いただければ幸いです。教職以外の進路を考えている学生もいますと同様にご指導いただきたく存じます。



Q 受入学校・園と学生のマッチング作業は大学がするというのですが、受け入れる学生について、受入学校・園から要望を出すことはできますか？

A 「Webエントリーシステム」には、教育委員会、学校・園それぞれの方針にそって、受け入れたい学生について、「教職志望者」「学年」「学部」等の条件を入力する欄を設けております。学生が行う活動に応じて学部・学年を限定する必要や、部活動経験など、その他の条件がございましたらご入力ください。ただし、条件によっては、対象学生も限られますので、その点はあらかじめご了承ください。

Q 学生はどのようにして研修先の学校・園を選ぶのでしょうか？

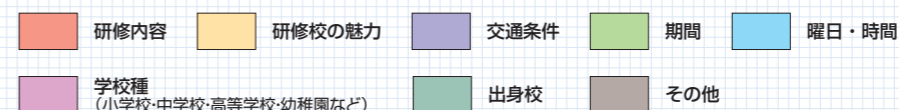
A グラフ（P.12 グラフ2）のとおり、学生が最も重視しているのは研修内容（学校・園での活動内容）です。事前指導で、学生には「学校現場を知ることが目的なので、いろいろな仕事を体験させてもらいなさい」と伝えております。研修内容については、一人の学生につき、複数の内容を組み合わせさせていただいても結構です。「研修情報」には、なるべく詳しい内容をご入力くださいますようお願いいたします。

研修先を決定する第2、第3番目の要素としては、研修内容のほかに、交通条件や研修期間を重視していることがわかります。大学の授業の関係上、インターンシップ生の半数以上は、短期連続型での研修を希望します。しかし、教職志望が固まり、生徒と長く接したいという学生も増えてきます。

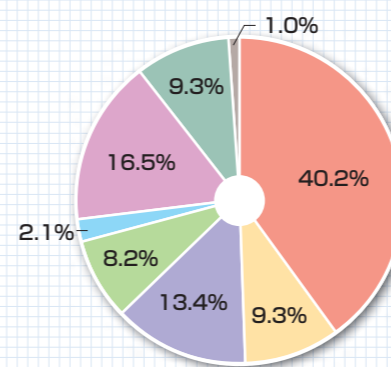
長期型の場合は、学業との両立が前提のため、曜日・時間は募集段階で確実に決定いただくようお願いします（選択可能な複数の曜日・時間がある場合は、極力、備考欄にその旨を明記願います）。これまでに、大学より派遣内定を出した学生が、受入学校・園との面談に臨んだ際に、初めて受入学校・園の希望（具体的な曜日・時間・日程など）を伺い、学生のスケジュールとの調整が十分に行えず、スムーズに研修を行うことができなかったケースがありました。

グラフ2

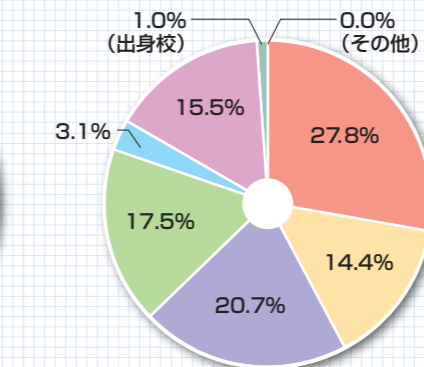
研修先を選択する際に考慮した要素



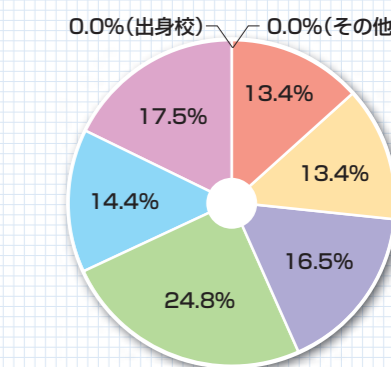
第1番目の要素



第2番目の要素



第3番目の要素



※2016年度 事後アンケート結果

Q 学生を受け入れる際に留意すべき点がありますか？

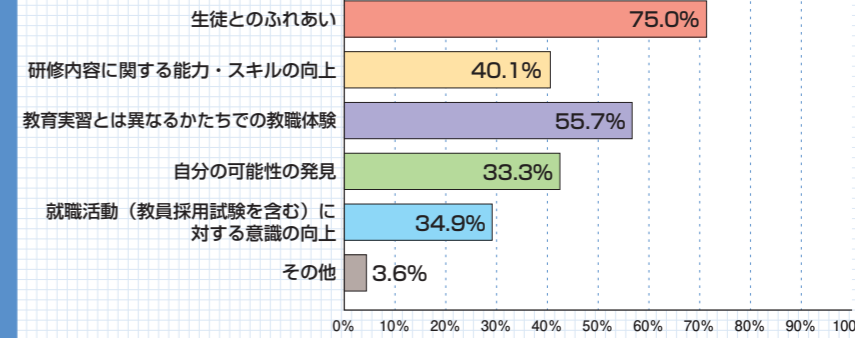
A まず、「受入担当者」をお決めください。学生には「Webエントリーシステム」の情報をそのまま開示します。学生は、派遣内定後、研修前に受入学校・園を訪問し、受入担当の先生方に面談をしていただきます。なお、全研修終了後、学生はP.17の「研修報告書」を大学に提出します。その際、誠にお手数ですが、「研修報告書」に講評のご記入をお願いします。

Q 学生が学校インターンシップに参加する動機は何でしょうか？

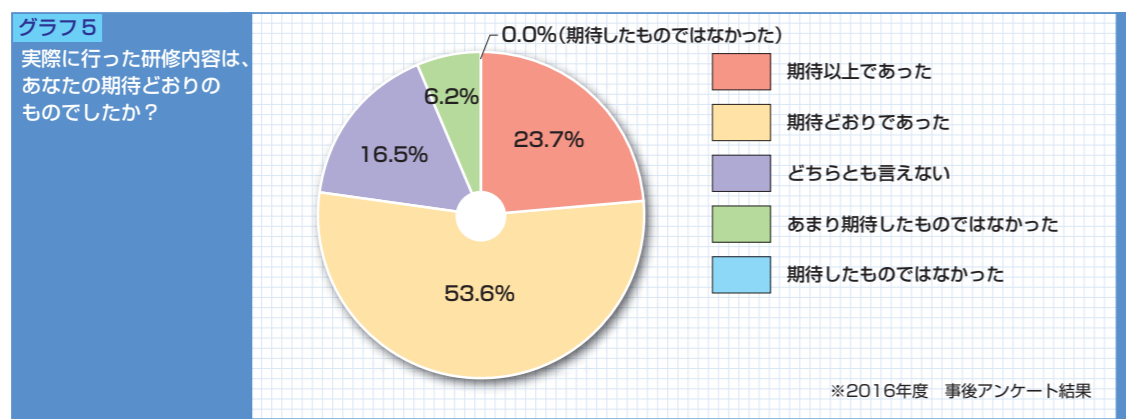
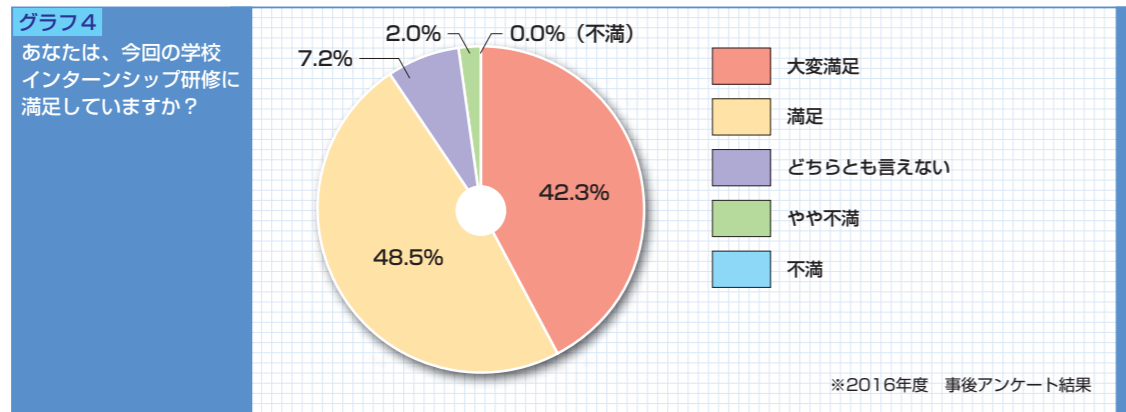
A 教育現場での就業体験が本プログラムの趣旨ですが、学生が最も期待していることは、児童・生徒とのふれあいです（グラフ3）。そしてまた、一番悩むのも児童・生徒とのふれあいの方です。創意工夫を重ねほとんどの学生が学校インターンシップに手応えを感じて研修を終えています（P.13 グラフ4～5）。

グラフ3

研修にあたって1番期待していること



※2016年度 学校業務講座アンケート結果



Q 最も気をつけねばならないトラブルには、どのようなものが考えられますか？

A 学校・園には個人情報が多く存在しています。本学では、事前講座での指導のほか、学生から受入学校・園と大学にP.16の「誓約書」を提出させ、受入学校・園と大学との間でP.16の「覚書」をとりかわしています。トラブル回避のため、**生徒の成績等の個人情報を含むファイルが入っているパソコンは利用させない**、あるいは、ファイルへのアクセス権を設定する等のご配慮をいただければ、学校・園、学生双方にとっても安心して研修を進められるかと思えます。

学校インターンシップは「人と人とのつながり」によって支えられています。事前講座では、学生に対して、生徒の学習レベル、容姿、身体、服装、学校の環境についての発言、気軽に言ったつもりの一言や親しみをこめたつもりの一言が相手を傷つける場合もあると指導しています。また、学生と特定の生徒が親しくなり、携帯番号やメールアドレスを教えあうというようなことのないよう指導しております。受入学校・園でも、ご指導をお願いします。

Q 学校インターンシップ終了後にも、引き続き学生に来てもらうことはできますか？

A 研修期間や時間の条件を定めているのは、本学が学校インターンシップを大学教育の一環として捉え、単位を認定しているからです。単位を認定しない学校現場での活動には、学生個人によるボランティア活動があります。**受入学校・園と当該学生との間で合意があれば、インターンシップ終了後も、ボランティアとして学校・園のお手伝いをさせていただくことに支障はありません。**ただし、学生には、大学にその旨を必ず報告するようにご指導ください。本学では、学生の活動を把握する趣旨から、学校インターンシップ後の学校ボランティアについても、原則として学生からの報告を求めています。

学校インターンシップを経験して

■ インターンシップ生



相澤 茉奈さん
文学部 2年次生
(学年は研修時)

学びの多いインターンシップでの経験を通じて、教員のやりがいと自身の方向性を発見できました。

【研修先】小学校 【研修期間】短期型 【主な研修内容】授業補助、行事補助

小学生の頃、私たち児童一人ひとりと向き合い、授業も休み時間も一緒に過ごしてくれた担任の先生を見て、教員になりたいと思うようになりました。大学では、中学の英語科教員を目指して学ぶ一方で、実際の教育現場を肌で感じたいという思いがあり、1年次に高校での短期型の学校インターンシップに参加しました。

初めてのインターンシップにあたり、私は学校教育の現場を知ることと、先生方のお役に立てるよう何事も積極的に取り組もうと考えていました。期間中は、授業見学のほか、教材用の資料や生徒への連絡用のプリントなどさまざまな実務の補助を担当。授業に必要な準備や授業以外の教員の仕事を知ることができて、すごく勉強になりました。また英語教科の指導においては、発音や語彙の豊富さ、指導力の的確さなど教員のスキルの高さが生徒の学習理解度に直結すると実感。私も、もっと英語力を高めなければと大きな刺激を受けました。ただ、教員の仕事を学ぶことに意識を集中していたので、生徒たちとあまり交流できなかったことが反省点として心に残りました。

2年次には、年代の違う学校の現場も体験するため、小学校での短期型インターンシップに参加しました。期間中は、5年生の先生方のサポートとして、各教科の授業見学や行事の補助のほか算数の授業でのアシスタントもさせていただきました。今回は、1年次の課題を踏まえて、児童の目線に立って積極的に交流しよう意識しました。実際に、算数の時間の机間巡視では一人ひとりの様子を見ながら話しかけ、また休み時間や昼休みも一緒に遊びました。小学生たちは年齢的に素直な部分が多いためか、初日から私を受け入れてくれたので、すごく楽しく過ごすことができました。

特に勉強になったのは、運動会で披露するソーラン節の練習での経験です。私も児童と一緒に先生方の指導を受けていたのですが、私自身ソーラン節が初体験だったこともあり、初日はじっくりと先生の指導や児童たちの様子を見ていました。しかし、授業の後、先生から「相澤さんも児童と一緒に体を動かさないと」と指摘を受けたのです。実際に、その後、一緒にやろうという姿勢で児童に接していくと、最初は足元の砂を触るなど集中できなかった児童たちも、次第に練習に熱中するようになりました。この年代では、教員が実際に行動や態度で示すことが、児童たちの正しい行動や前向きな姿勢を養うことにつながることを学びました。

小学校でのインターンシップは、私にとって大きな経験になりました。行事補助の体験や授業補助で分からなかったことを理解できたときの目の輝きなど、児童たちの成長や変化が目に見えて分かるのは、私にとってもすごくやりがいを感じました。現在は派遣先の先生からの誘いもあり、現在もボランティアとして週に数度この小学校で活動しています。今後は小学校での英語教育の導入が予定されていますし、あらためて小学校教諭免許を目指そうと、本気で考えているところです。

6 学校インターンシップ 受入申込みについて



インターンシップの実施期間について（業務日報、研修報告書の作成）

業務日報（見本）

関西大学 学校インターンシップ業務日報	
学部	法学部
学籍番号	法00-00000
氏名	関大 太郎
研修先学校名	さくら市立さくら小学校
研修日	2017年0月0日(○)
研修時間	8:20 ~ 17:00
時間	業務内容
8:20	登校
8:30~8:50	朝礼
9:00~9:30	給食当番決め
9:30~9:35	国語：音楽「いちねんせい」のうた
9:35~9:45	休み時間
9:45~10:30	夏休みの思い出発表
10:30~10:50	休み時間
10:50~11:35	書写（カタカナ）
11:35~11:45	休み時間
11:45~12:30	図算（本運動）、算数：持ち物（箱）の説明
12:30~13:10	給食
13:10~13:30	掃除
13:30~13:50	昼休み
13:50~14:50	宿題の説明、帰る準備
14:50	児童下校
14:50~17:00	報告書まとめ、宿題の丸つけ等
17:00	下校
今日、学んだことや感想	
1年1組では、休憩時間の終わりのチャイムが鳴ったら席に座っておくという決まりをつくって、休憩時間が終わる5分くらい前になると児童が時計を気にしだし、「そろそろ戻ろう」と自分たちで気付けることはすごいと思いました。また、少し遅れて教室に戻って来た児童には、他の児童が「もうちょっと早く帰ってこなかんで！」と声を掛けていて、お互いに注意し合う姿勢は、すばらしいなと思いました。	
算数は算数の宿題のプリントの丸つけをしました。18人分の丸つけをするだけなのに4分くらいかかり、改めて教師という仕事の大変さがわかりました。授業が終わってもプリントの丸つけや会議、そして次の日の授業の準備等、本当にたくさんの仕事があるのだなと思いました。	

インターンシップ生には「業務日報」および「研修報告書」の作成を義務付けております。

「業務日報」…研修日ごとに、その日行った業務や所感を記録

「研修報告書」…研修終了時に研修の概要や全体的な反省点、今後の展望について記入

なお、研修報告書には、受入校の先生に記入いただくコメント欄を設けておりますので、お手数ですが、研修終了時に、研修学生へのアドバイスや意見等をご記入いただけますようお願いいたします。

研修報告書（見本）

関西大学 学校インターンシップ研修報告書	
学部	法学部
学籍番号	法00-00000
氏名	関大 太郎
研修先学校名	さくら市立さくら小学校
研修期間	2017年0月0日(○) ~ 00月00日(○)
研修概要、および全体的な反省点や今後の展望について	
今回のインターンシップで心掛けたことが二つあります。まず一つめは、児童に積極的に話しかけていくことです。私は1年1組に入らせていただいたのですが、ろう下などで他の学年の児童と出会う時も声をかけることを心掛けた。1~6年生の児童と話していると、やはり低学年と高学年では話す内容や口調も全然違うし、アプローチを変えなくてはいけないということを感じました。	
二つめは、私はまだ教壇に立つて教えることができないので、先生の授業の進め方や口調、叱り方やほめ方などをしっかり見習い、どのようにクラスをまとめているのかを学ぶということです。一度児童を替わらせてしまうと、クラス全体のまとまりがなくなってしまうということを知りました。また、一度まとまりがなくなると修正することは難しいので、初めから心遣いということも学びました。先生は児童を叱る時は荷がけいけなかったのかをほつきりと伝え、反省するまで徹底的に叱っていました。また、休憩時間の終わりのチャイムが鳴るまでは教室に戻り、席に着いておくというルールを作っていて、とてもまとまりのあるクラスだなと感じました。楽しむ時は楽しんで、きちんとする時は真剣に。このようなメリハリが重要だということがわかりました。	
今回のインターンシップを通して、課題もたくさん見つかりました。児童が授業中よそ見をしていたり、関係のないことで話しかけてきたりした時に、はっきり叱れなかったり、器用で移動する時にまとまらなかったりという点です。これからはこのような場面でも、先生がどのような対応をしているのかに目を向けていきたいです。短い期間でしたが、クラスに入り授業を見学させていただき、たくさんの児童と交流ができて、様々な発見をすることができました。インターンシップを通して、小学校の先生になるという気持ちがより強いものとなりました。	
これからも、さくら小学校での経験を思い出して、生かしながら、4年後には教壇に立てるよう努力していきたいです。	
以下は研修先ご担当の先生に記入をお願いしてください。	
ご担当の先生から研修学生へのアドバイス、大学に対するご意見などご記入いただければ幸いです。	
学級担任になって大変なこと、学級を運営することなど教えてください。もちろんクラス全体で遊んだり楽しんだりすることも大切だと思いますが、「学がづくりで学級づくり」を実行しています。学習中は真面目に課題に取り組む。家庭学習もきちんと習慣付けることには欠かせません。1人の子にもわからせるという思いも強いので、さまざまな教材研究も行います。クラスが真面目に学習に取り組むようになると、お互いの良さを認め合い、努力する集団へと高まっていきます。	
大切なことは、作文・詩・日記などを読めようことにより、関心地の良い集団に、自分と関わってもらえるクラスにすることです。	
1年生という早い時期に現場を経験し、是非4年後に生かせるよう頑張ってください。	
氏名	関大 太郎 (印)

→ 受入校の先生コメント欄



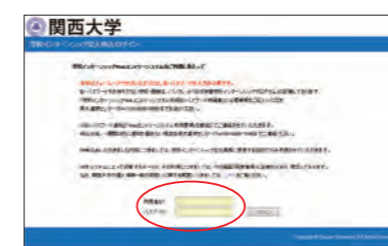
学校インターンシップWebエントリーシステムについて

学校インターンシップWebエントリーシステムを利用して学校インターンシップの受入申込みを行っていただいております。

Webエントリーシステム(申込フォーム)のアクセス画面



ID・パスワードの入力画面



Webエントリーシステム 研修情報入力画面



**学校インターンシップWebエントリーシステム
利用ID・パスワード申請期間
本パンフレット受取~4月19日(水)**

● 学校インターンシップ専用サイト
URL : <http://www.kansai-u.ac.jp/koudai/gakuinte/>
学校インターンシップWebエントリーシステム(申込フォーム)を利用いただくには、ID・パスワードの入力が必要ですので、P.22の「学校インターンシップWebエントリーシステム利用ID・パスワード申請書」に必要事項をご記入いただき、FAXでお送りください。
● **申請書は学校インターンシップ専用サイトからダウンロードしていただくことも可能です。**

ID・パスワード通知を郵送にてお送りさせていただきますので、学校インターンシップ専用サイトの「Webエントリーシステム利用要領」をご参照の上、研修内容等の情報をご提供ください。
なお、申込み後、一週間以内に通知が届かない場合は高大連携センター(06-6368-1184)までご連絡ください。

**学校インターンシップWebエントリー締切
4月22日(土)**

本書は高大連携センターのHPからダウンロードすることも可能です。

《 学校向け学校インターンシップ募集説明会申込書

FAX送信用紙》

(送信票は必要ございません。ご送信の際はこの用紙だけお送り下さい。)

関西大学高大連携センター 行

FAX 06-6368-0858

【2017年度学校向け学校インターンシップ募集説明会について】

4月6日(木)16:30からの「学校向け学校インターンシップ募集説明会」に出席いたします。

学校・園名 教育委員会名	
所属・役職	
ご出席者	(計 名)

4月4日(火)までにご送信願います。



F A X 送信方向



切り取り線

本書は高大連携センターのHPからダウンロードすることも可能です。

学校インターンシップWebエントリーシステム 利用ID・パスワード申請書

FAX送信用紙

(送信票は必要ございません。ご送信の際はこの用紙だけお送り下さい。)

関西大学高大連携センター 行

FAX 06-6368-0858

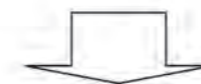
【2017年度学校インターンシップ実習生受入申込みについて】

2017年度学校インターンシップ実習生を関西大学からお受け入れいただける場合は、学校インターンシップWebエントリーシステム利用のためのIDとパスワードをお送りしますので、以下に必要な事項をご記入のうえFAXにて送信ください。

学校・園名 教育委員会名	
(フリガナ) ご担当者名	
ご住所	〒
ご連絡先	電話： FAX : メール：

※ID・パスワード通知を郵送にてご連絡させていただきます。申込み後、一週間以内に通知が届かない場合は、高大連携センター(06-6368-1184)までご連絡ください。

4月19日(水)までにご送信願います。



FAX送信方向



